平成30年度学校自己評価シート（本庄第一中学校）

| | |
|---|---|
| 目指す学校像<br>（ミッション） | 学園理念「響生」<br>・影響を受け、影響を与え、柔軟さと豊かさを育む。<br>・本校の生徒と教師・職員は目標達成のため、お互いに響きあい、前進し、活力ある学園を築きます。<br>教育方針<br>・本校の生徒・教職員は共に学ぶ心をもち、学力・技術の向上に努める。<br>・本校の生徒・教職員は共に豊かな人間関係を築くため、礼節を重んずる。<br>教育目標<br>「高い学力の養成」「人間力の育成」「希望進路の実現」 |
| 本年度の目標 | 1　学力の定着と向上、そして魅力ある授業づくり<br>2　開かれた学校づくり（学校開放・説明会・体験入学の充実・地域への貢献）<br>3　人間力の育成に努める |

| | | |
|---|---|---|
| 達成度 | A | ほぼ達成　（8割以上） |
| | B | 概ね達成　（6割以上） |
| | C | 変化の兆し（4割以上） |
| | D | 不十分　（4割未満） |

※学校関係者評価とは、最終回の学　校評価懇話会を開催、また個々に意見を頂き、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| 出席者（聴取者） | |
|---|---|
| 学校関係者（法人　監事・評議員） | 3名 |
| 生徒 | 1名 |
| 事務局 | 2名 |

※番号欄は本年度の目標番号と対応させている。

| 学校自己評価 | | | | | | | | 学校関係者評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度目標 | | | | | 年度評価（平成31年3月31日現在） | | | 実施日平成31年5月末日 |
| 番号 | 課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校関係者からの意見・要望・評価等 |
| 1 | ○学習に対する意識を高め、授業に積極的に取り組む姿勢を養う。また、家庭学習の定着を図る。<br>○中学校3年間を通し、各単元の反復学習によって基礎力定着度を高める。 | 進路実現への取組（各教科の目標や予定された補習・行事を行う） | ○TPOゼミ（ダイジェスト版補習）を定期的に実施する。<br>○TPOゼミを動画にて配信部活動への積極的な参加を可能にするため、インターネットを通して授業動画を生徒に配信する。<br>○本一メビウス（自動作問システム）を使用したプリント学習の実施<br>○各教科の宿題は、データ化しインターネットにアップ<br>○ホームルーム小テストや授業内での小テストの実施<br>○3学年に対しては、1・2年時の経験を活かし、徹底した演習に取り組ませる。<br>○数学・英語の一部を習熟度展開し、授業を行う。<br>○外国人講師を増やし、生徒と一緒に日常生活を送る時間をつくる。 | ○模試前年結果比較（偏差値平均5以上アップ）<br>○TPOゼミの授業動画等を含め、放課後補習実施の徹底が図れたか。<br>○家庭学習の定着が図れたか。<br>○小テストの取り組むことができたか。<br>○積極的に演習に取り組めたか。<br>○外国人講師との日常生活を共にし、英会話の力を高められたか。<br>○進路目標の実現ができたか。 | ○模試前年結果を比較し、偏差値平均5アップには至らなかった。<br>○毎時、TPOゼミ授業を撮影した動画を授業終了時からおよそ10分以内にGoogle Class room（仮想教室）を通じて生徒に配信することができた。また、希望者を対象とした放課後補習の徹底を図ることができた。<br>○各生徒の家庭学習の定着を図るため、授業動画配信（TPO）、放課後補習、また生徒による学習計画作成などを実施した。宿題の提出状況に改善は見られたが、まだ指導を要する生徒もいた。<br>○TPOゼミに加え、各教科においても生徒の実力を高めるための小テスト等を含めた演習及び解説に取り組むことができた。<br>○外国人講師との朝の挨拶、廊下での会話が積極的になされていた。その中でも特に給食時での英会話は、生徒の英会話への消極的な姿勢から徐々に積極的な姿勢に変化し、高い効果が得られた。<br>○第一希望進路への実現を96%の生徒が果たせた。 | B | ○TPOゼミ（演習授業）を、放課後から授業時間内に移動し生徒全員が受けられるようにし、生徒たちのさらなる希望進路の実現を目指す。<br>○学力向上への取り組みは浸透しつつある。生徒の実態に即した内容が展開できる授業をさらに推進していく。<br>○入学時、進級時と比べ、成績上位・下位者の差が少しでも縮まるよう教員のスキルアップを図る。<br>○各教科における小テストや初見の問題実施により生徒の実力アップを図り、各自の模試数値をアップできるよう努める。<br>○英語の一部を習熟度別にし、授業を展開する。<br>○英語4技能の指導充実を図るため、外国人講師4人からの指導を継続して行う。<br>○反転授業にも取り組み、更なる生徒の実力アップを図り、第一希望進路の実現を目指 | ・放課後の希望制であったTPOゼミが、学習時間内に生徒全員が受講できるようになったことは大変すばらしい。さらなる学力の向上につながると思う。<br>・TPOゼミの内容を動画配信していただいたことで、その時間内で理解が難しかった場合であっても、家庭学習時に視聴し反復することで理解の定着が図れたと思う。また、学習面でも進路に対する意識を持つうえでTPOゼミはとても効果的であると考える。<br>・具体的対策にある部活動への積極的な参加を可能にすることについては、次年度への課題としてあげられた授業時間内への移行に期待する。<br>・外国人講師と授業時間外に気軽に会話ができる環境はとてもありがたいことだと思う。<br>・授業やメビウスプリント、放課後補習等による学習への意識向上が多くの生徒に見られる。また、学習実施状況については継続課題とし、学年が上がり意識向上の見られる生徒については、自主自立への移行も必要と考える。<br>・小テストによる実力アップの効果が期待できるよう評価を適正に行う必要がある。英語学習への動画配信やスタディサプリの活用により生徒が英語を身近に感じることができ、リスニングや発音にも効果がみられる。 |
| | ○家庭学習の習慣化<br>○学習に対する姿勢と学力の向上<br>○生徒の理解度を高められるより良い授業が実践できるようICTの推進を図る。 | 授業改善の取組 | ○生徒一人ひとりに寄り添ったきめ細かい進路指導を実践する。<br>○授業内容の定着が図れるよう工夫した展開を行う。<br>○各教科ごとに教員がしっかり打ち合わせをする。<br>○家庭学習の記録を各生徒が作成し、自分の課題となる部分を発見する。保護者のコメント欄を利用してこちらの考えを述べ、意思疎通を図り各生徒の課題を探す。<br>○学力等の定着を図るため、家庭学習が習慣化されていない生徒への声掛けに努める。<br>○授業アンケートの実施により、生徒が何を求めているか。改善点は何か確認をする。 | ○生徒の授業に臨む姿勢や反応は良かったか。<br>○教員の授業準備、そして実際の授業はしっかり行えたか。<br>○家庭学習の習慣化が図れていたかどうか。<br>○生徒への宿題定着を図るためにインターネット上に生徒への情報部屋を用意している。宿題や連絡事項、行事予定などすべてが発信できるように取り組んでいたかどうか。<br>○授業に対する満足度は高いか。<br>○ICTを生かした授業展開ができたかどうか。<br>○授業を通じて自ら考え表現する力を養うことができたか。 | ○1年生においては、1学期積極的に授業に臨む姿勢が弱いと感じる生徒もいたが、2学期以降は、積極的な参加ができるようになった。2・3年生においては、通年授業に臨む姿勢が確立できていた。<br>○教員の授業に対する準備、授業は、しっかり行えていた。<br>○生徒の授業満足度は高いものの、さらに新な取り組みを探究する姿勢はこれからも維持し続けたい。<br>○ICT化を図るべく取り組んできた成果は、教員の授業や宿題の出し方、宿題の提出方法、連絡事項などを含め、しっかり行うことができた。<br>○全体を通して自らの考えを発表し、さらにしっかり表現する力を身に着ける授業ができた。 | B | ○家庭学習を定着させるため、継続した指導を行う。個別面談の実施や各自が家庭学習状況を把握することで習慣化が 図れるよう努める。<br>○授業アンケートを実施することにより、授業改善につながる具体的方法を探り、より充実した授業展開ができるよう結びつけていく。<br>○各教員は、さらに生徒たちが理解しやすい授業となるよう工夫に努める。現在のICTへの取り組みを礎とし、さらに深化するための方法が上乗せできるよう研鑚を積むことを心掛ける。 | ・キャリア計画、進路指導計画の在り方は継続した工夫が必要である。<br>・ICT化を図ることは、これからの時代必須条件である。これからもさらにICT化を推し進めてもらいたい。<br>・タブレットの使用目的を生徒に明確に伝え、授業に活かしてほしい。<br>・学習計画表を通じて本人の改善すべき点、取り組みを続けるべき点等について、きめ細かいアドバイスがもらえたことから、学習に対してより積極的に取り組む姿勢が持てた。<br>・夏季休みの課題については適正な量が出され、内容は各授業担当が進路に合わせて考えていた。 |
| 2 | ○情報公開を進める。<br>○学校を開放する。<br>○保護者が見学しやすい環境づくりを実施する。 | 開かれた学校づくり | ○年5回定期試験解説授業をはじめとする保護者が参加できる行事を実施<br>○HPを適宜更新し、情報を発信する。<br>○学校内において本校独自の説明会体験入学会の実施。<br>○地元社会体育団体への施設開放。 | ○「第一中学クラス通信」が発行できたか。<br>○HPの情報が更新され閲覧者が増えたか。<br>○体験入学参加者数目標250人を達成できたか。<br>○中学校説明会参加者の受験及び入学する率が高かったか。<br>○学校生活に満足できたか。 | ○「第一中学クラス通信」の発行については、学年により取り組みの差が生じていた。<br>○HPの新着情報の更新頻度は昨年同様行うことができた。閲覧者数は昨年より4885件多く23%アップした。<br>○体験入学者参加者数250名を目標としていたが目標値には届かず、今年度は235名の参加者であった。<br>○中学校説明会参加者からの受験者数は65%、入学者数は84%であった。 | B | ○HPの情報更新が緩急ある速度にならぬようにし、学校からの情報が安定して流せるようにする。<br>○学校説明会や体験入学会など、小学生や保護者の方が、本校により興味を高めていただけるよう、実施時期や内容に工夫を凝らす。 | ・クラス通信の発行については各学級によりばらつきが見られたので統一を検討すべきではないか。<br>・クラス通信から学校の予定や家庭で心がけるべき点など生徒自身が意識することができた。<br>・定期考査解説授業の保護者参加率が低いのではないか。<br>・HPの閲覧数が増加傾向にあることは大変喜ばしいことである。インターネットを通じて今後も学校情報を公開してほしい。<br>・生徒の進路を考える一助となるよう外部受験に関する情報をさらに増やしてほしい。<br>・ICTを活用して学習強化を進め、その結果が進路実績等に反映され、ハイレベルな中学校として評価されブランド力となるのではないか。 |
| 3 | ○素直で明るく、何事にも活発に取り組める自立心を持った生徒に育てる。<br>○公共交通機関、スクールバス乗車等のマナーの向上に努める。<br>○いじめ問題の防止と発生時の早期解決<br>○スマートフォン等、通信機器を利用する際のマナ―アップ | 部活動や生徒会への積極的な参加<br>生徒指導 | ○生徒会活動（委員会活動含む）への積極的な参加を促し奉仕の精神や協調性、そして自律心などを育てる。<br>○体育や部活動、校外活動（学校行事）を通して継続する力を養い、目標作成や達成するための力、挑戦し続ける力を育てる。<br>○規範意識を高めるため、教員からの声掛けなどを通して挨拶や規則がしっかり守れる生徒を育てる。<br>○いじめ基本方針に基づいた全校を挙げての取り組みをする。<br>○情報セキュリティー講座・防犯講座租税教室などの開催<br>○生徒会を中心とした挨拶運動などを実施 | ○頭髪や服装に関して教員から注意される生徒がいたかどうか。<br>○いじめ基本方針に基づいたいじめに関する防止策がはかれたか。早期解決がはかれたか。<br>○生徒、教師がともに声を出してあいさつを交わすことができたか。<br>○スクールバス・電車などの乗車マナーが守れたか。<br>○インターネットトラブルが未然に防止できたか。<br>○部活動や生徒会活動を通じて積極的に物事に取り組むことができるようになったか。<br>○教員からの声掛けの徹底ができたか。<br>○講演会等の実施ができたか。 | ○頭髪服装の乱れを教員から注意を受けた生徒はいなかった。<br>○情報セキュリティに関する指導の実施、及び税金を納める意義を学ぶため租税教室を実施した。<br>○友人間の言葉によるトラブルがあった。<br>○生徒・教師がともにあいさつをしっかり行うことができた。<br>○スクールバス乗車態度については、1年通してマナーを意識した乗車ができた。<br>○少年クラブ（剣道・バドミントン）を主催し、地元の社会体育に積極的に参加できる状況を整えた。<br>○地元体操クラブに社会体育の一貫として会場を提供した。<br>○SNSの使用による友人のトラブルがあった。 | B | ○道徳の授業や特別活動、そして講座を通じ、公共の場においてのマナー向上や、良好な人間関係を築くための力を養う。<br>○ICTを利用した取り組みをさらに深化させマナー・モラル向上はもちろん、学習や連絡事項などにも有効な利用ができるよう工夫をする。保護者への伝達事項もICTを通じた方法をとることでペーパーレスにつなげていく。<br>○これからも社会体育の一助となれるよう地元体操クラブに体育館を提供していく。<br>○SNS等の使用方法について継続的に指導を行う。 | ・SNSによるトラブルが起きないよう使用方法などの理解を深めるための講話などを通じて指導を継続してほしい。<br>・生徒の個人的な悩みや生徒間の小さなトラブルにおいても迅速な対応をしていただいた。これからも早期発見早期解決に努めていただければありがたい。<br>・生徒と担任間の情報共有、HR、清掃など、生徒理解につながる場をさらに増やしてほしい。<br>・外部講師の活用なども含め、道徳教育・キャリア教育情報教育などのモラル学習等、さらに充実を図ってほしい。<br>・部活動においては今後、可能な範囲で中学生だけの部活動ができればよいのではないかと思う。現状よりもさらに活動の幅が広がると思う。 |

---

令和元年度学校自己評価シート（本庄第一中学校）

| | |
|---|---|
| 目指す学校像<br>（ミッション） | 学園理念「響生」<br>・影響を受け、影響を与え、柔軟さと豊かさを育む。<br>・本校の生徒と教師・職員は目標達成のため、お互いに響きあい、前進し、活力ある学園を築きます。<br>教育方針<br>・本校の生徒・教職員は共に学ぶ心をもち、学力・技術の向上に努める。<br>・本校の生徒・教職員は共に豊かな人間関係を築くため、礼節を重んずる。<br>教育目標<br>「高い学力の養成」「人間力の育成」「希望進路の実現」 |
| 本年度の目標 | 1　学力の定着と向上、そして魅力ある授業づくり<br>2　開かれた学校づくり（学校開放・説明会・体験入学の充実・地域への貢献）<br>3　人間力の育成に努める |

| | | |
|---|---|---|
| 達成度 | A | ほぼ達成　（8割以上） |
| | B | 概ね達成　（6割以上） |
| | C | 変化の兆し（4割以上） |
| | D | 不十分　（4割未満） |

※学校関係者評価とは、最終回の学　校評価懇話会を開催、また個々に意見を頂き、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| 出席者（聴取者） | |
|---|---|
| 学校関係者（法人　監事・評議員） | 名 |
| 生徒 | 名 |
| 事務局 | 名 |

※番号欄は本年度の目標番号と対応させている。

| 学校自己評価 | | | | | | | | 学校関係者評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度目標 | | | | | 年度評価（平成31年3月31日現在） | | | 実施日平成31年5月末日 |
| 番号 | 課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校関係者からの意見・要望・評価等 |
| 1 | ○学習に対する意識を高め、授業に積極的に取り組む姿勢を養う。また、家庭学習の定着を図る。<br>○中学校3年間を通し、各単元の反復学習によって基礎力定着度を高める。 | 進路実現への取組（各教科の目標や予定された補習・行事を行う） | ○TPOゼミ（ダイジェスト版補習）を定期的に実施する。<br>○TPOゼミを動画にて配信部活動への積極的な参加を可能にするため、インターネットを通して授業動画を生徒に配信する。<br>○本一メビウス（自動作問システム）を使用したプリント学習を実施する。<br>○興味関心が高まる各教科の宿題をデータ化したものをインターネットにアップし、積極的に宿題に取り組めるようにする。<br>○ホームルーム小テストや授業内での小テストの実施する。<br>○3学年に対しては、1・2年時の経験を活かし、徹底した演習に取り組ませる。<br>○外国人講師と生徒とが一緒に日常生活を送る時間をつくる。 | ○模試前年結果比較（偏差値平均のアップ）<br>○TPOゼミの授業動画等を含め、放課後補習実施の徹底が図れたか。<br>○家庭学習の定着が図れたか。<br>○継続的に小テストを実施することができたか。<br>○積極的に演習に取り組めたか。<br>○外国人講師と日常生活を共にし、英会話力が高められたか。<br>○進路目標の実現ができたか。 | | | | |
| | ○家庭学習の習慣化を図る。<br>○学習に対する姿勢と学力を向上させる。<br>○生徒の理解度を高められるより良い授業が実践できるようICTの推進を図る。 | 授業改善の取組 | ○生徒一人ひとりに寄り添ったきめ細かい進路指導を実践する。<br>○授業内容の定着が図れるよう工夫した展開を行う。<br>○各教科ごとに教員が打ち合わせを行う。<br>○家庭学習の記録を各生徒が作成し、自分の課題となる部分を発見する。<br>○学習内容の定着を図るため、家庭学習が習慣化されていない生徒への声掛けに努める。<br>○授業アンケートの実施により、生徒が何を求めているか。改善点は何か確認をする。 | ○生徒の授業に臨む姿勢や反応は良かった か。<br>○教員の授業準備、そして実際の授業はしっかり行えたか。<br>○家庭学習の習慣化が図れていたかどう か。<br>○生徒の宿題に取り組む姿勢の定着を図るためGoogleClassroomを活用し、より効果的な学習へのアプローチができたか。<br>○連絡事項、行事予定などすべてが発信できるように取り組んでいたかどうか。<br>○授業に対する満足度は高いか。<br>○ICTを生かした授業展開ができたかどうか。<br>○授業を通じて自ら考え表現する力を養うことができたか。 | | | | |
| 2 | ○情報公開を進める。<br>○学校を開放する。<br>○保護者が見学しやすい環境づくりを実施する。 | 開かれた学校づくり | ○学級通信を通じて生徒・保護者とともにスケジュールや目標などを共有する。<br>○定期試験解説授業をはじめ保護者が参加できる行事を実施する。<br>○HPの適宜更新に努め、積極的に情報を発信する。<br>○地元社会体育団体へ施設を開放する。<br>○文化祭は一般公開を実施する。 | ○学級通信を通じ、情報や指導目標などが共有されたか。<br>○必要な情報がHPを通じて発信され閲覧者数が増えたか。<br>○多くの保護者が行事に参加できたか。 | | | | |
| 3 | ○生徒の活躍や活動、及び学校の取り組みなど積極的な情報提供を行う。<br>○学校の考え方、計画、実際の諸活動を知らせる。 | 生徒募集広報活動 | ○HPの更新頻度を高め、本校への興味関心を持つことにつながるよう積極的な情報を発信する。<br>○学校内において本校独自の説明会体験入学会の実施する。<br>○入試対策講座を実施し、本校の取り組みや授業の様子を体験させる。<br>○本校の取り組みを案内できるよう校外施設への訪問に努める。 | ○HPの情報が更新され閲覧者が増えたか。<br>○体験入学参加者数が昨年比増となったか。<br>○中学校説明会参加者の受験及び入学する率が高かったか。<br>○入試対策講座に参加した児童の受験につながったかどうか。 | | | | |
| 4 | ○素直で明るく、何事にも活発に取り組める自立心を持った生徒に育てる。<br>○公共交通機関、スクールバス乗車等のマナーの向上に努める。<br>○いじめ問題の防止と発生時の早期解決に努める。<br>○スマートフォン等、通信機器を利用する際のマナ―アップを図る。<br>○基本的生活習慣の徹底を図る。 | 部活動や生徒会への積極的な参加<br>生徒指導 | ○生徒会活動（委員会活動含む）への積極的な参加を促し奉仕の精神や協調性、そして自律心などを育てる。<br>○体育や部活動、校外活動（学校行事）を通して継続する力を養い、目標作成や達成するための力、挑戦し続ける力を育てる。<br>○規範意識を高めるため、教員からの声掛けなどを通して挨拶や規則がしっかり守れる生徒を育てる。<br>○いじめ基本方針に基づいた全校を挙げての取り組みをする。<br>○情報セキュリティー講座・防犯講座などを 開催する。<br>○生徒会を中心とした挨拶運動などを実施する。<br>○成功・失敗体験などを通して生活習慣の改善につなげる。 | ○頭髪や服装に関して教員から注意される生徒がいたかどうか。<br>○いじめ基本方針に基づいたいじめに関する防止策が図れたか。また、早期解決がはかれたか。<br>○生徒、教師がともに声を出してあいさつを交わすことができたか。<br>○スクールバス・電車などの乗車マナーが守れたか。<br>○インターネットトラブルが未然に防止できたか。<br>○部活動や生徒会活動を通じて積極的に物事に取り組むことができるようになったか。<br>○教員からの声掛けの徹底ができたか。<br>○講演会等の実施ができたか。<br>○経験を積むことで生活習慣の改善が図れたか。 | | | | |